

火災から身を守る

(ブレイカー遮断)

地震発生時には、消防機関がすぐに消火対応できない場合が想定されますので、まず火災を発生させないことが重要です。

また、火災が発生した場合は、消火器などで火が小さいうちに消火し、身の危険を感じたら安全な場所に避難しましょう。

①過去の火災による被害

●関東大震災の火災

(1923年9月1日)
死者・行方不明者は10万人を超え(14万2,000人との推計も)、建物被害は、焼失家屋44.7万戸、全半壊25.4万戸に上ります。

また、関東大震災の死者のうち87%は火災で亡くなったとされています。

●阪神・淡路大震災

(1995年1月17日)

地震発生直後から各地域において同時に約300件もの火災が発生し、特に神戸市内は大きな被害を受けました。

●東日本大震災

(2011年3月11日)

東日本大震災による火災は、

津波浸水区域を中心に、広範囲にわたり300件以上発生しました。

②電気火災の発生防止

火災発生原因がはつきりしているものの内、阪神・淡路大震災では約6割が電気に起因した火災となっています。

南海トラフ地震でも、強い揺れによって、電熱器具などからの出火や、停電後の復電時に電気器具からの出火が懸念されます。

電気関係の出火を防ぐには避難時にブレイカーを落とし電気を遮断することが最も効果的です。

自宅はもちろんですが、避難する際は、隣近所にも積極的にブレイカー遮断の声掛けを行うことが火災発生防止につながります。

③感震ブレイカー

しかしながら、災害発生後の混乱時や、留守の場合には、必ずしもブレイカーを落とすことは難しい面があります。

感震ブレイカーは設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断するものであり、各家庭に設置することで出火を防止し、他の住

宅等への延焼を防ぐことで、地震による火災被害を大きく軽減することができます。

感震ブレイカーは主に次の三種類があります。

(1)分電盤タイプ
分電盤本体に、一定の震度を感知して電気を遮断する機能が付いたもので、基本的にはすべての電気が遮断されま

(2)コンセントタイプ

コンセントに差し込むタイプと、既存のコンセントと取り替えて埋め込むタイプ(要工事)などがあります。個別のコンセントの電気を遮断するため、電気ストーブや鑑賞魚用ヒータなどの電熱器具を接続する個所への設置に適しています。

(3)その他(簡易タイプなど)

ご家庭の分電盤に取り付け、一定の震度によりおもり玉が落下することでブレイカーを遮断するものなどがあります。比較的安価なものが多く、工事が不要です。

【注意事項】

分電盤タイプでは、地震発生時に家庭内すべての電気を遮断するので、医療機器など

を使用する家庭では、設置にあたって注意が必要です。

また、夜間に地震が発生した場合には全照明が消えるので、非常灯を準備しましょう。

購入、設置にあたってはお住まいの環境に適したものをお選びください。分電盤タイプなどの工事が必要なものについては、電気工事店などにご相談ください。



■問い合わせ

総務課

☎ 893-1113

吾北総合支所住民福祉課

☎ 867-2300

本川総合支所住民福祉課

☎ 869-2112

ニュース

水防工法

講習会に参加

6月15日に波介川導流堤防で、国土交通省主催の「水防工法講習会」が開催されました。

これはいの町消防団、国土交通省、高知県、高知市消防団、土佐市消防団、日高村消防団が合同で、さらなる水防技能の習熟及び防災意識の高揚を図ることを目的として、開催されたものです。

講習会では、防災エキスパートの指導のもと、まず2班に分かれて、基礎であるロープワーク、土のう作成に取り組みました。その後、順次、月ノ輪工、積み土のう工、木流し工に取り組みました。

